

京丹後市学校再配置基本計画(素案)説明会

- 1 開催日時 平成 21 年 7 月 6 日（火）午後 7 時 30 分～午後 9 時 20 分
- 2 開催場所 京丹後市立竹野小学校体育館
- 3 出席者 中山市長、米田副市長、大下副市長、米田教育長、和田市民部長、水野教育次長、藤村企画政策課長、東市民局長、栗倉教育総務課長、吉田文化財保護課長、山下学校教育課長補佐、長尾指導主事、横島文化財保護課長補佐、地元出席者 47 名

報 道 毎日新聞

4 内 容

- (1) あいさつ
- (2) 資料説明 ①京丹後市学校再配置基本計画（素案）
②京丹後市立学校施設の耐震化計画（素案）
- (3) 質疑応答

5 要 旨

● あいさつ （市長）

皆さんこんばんは、中山でございます。本日は夜遅い時間に学校再配置の説明会に多数お集まりいただきありがとうございます。学校再配置計画については 6 月市議会の全員協議会に再配置・耐震化の素案を提出させていただきました。素案では竹野小学校は統合される予定になっています。詳しくは後ほど教育委員会から説明をさせていただきますが、私からは学校再配置の経緯や私の思いを簡単に述べさせていただきます。京丹後市は 5 年前に丹後 6 町が合併して誕生しました。その前から少子化・高齢化・過疎化、地場産業の低迷など課題を抱えていました。また、福祉や社会インフラの未整備等多くの課題を持ちながらのスタートでした。財政が厳しい中、創意工夫をしながら市政を運営してまいりました。それぞれの分野に横断的にある問題として人に対することがあります。私は「共生社会」を目指し、人をどう守るか。支えるか。育むか。を市政の大きな課題として位置づけ取り組んできました。特に育むという観点から本市の将来を担う若者、子どもの成長していく環境を私たち大人が整える事は大切であると考えています。その将来の基礎を培うのが小・中学校だと考えています。2 年前 19 年 7 月に PTA や地域の方にお世話になり、各町毎の分科会で「子どもたちのためにどんな環境がベストなのか」という視点から練り上げていただいた意見を検討委員会で慎重審議させていただきました。分科会・

検討委員会の方に心からお礼を申し上げます。1年前の11月に検討委員会からの答申を教育委員会にいただき、その後教育委員会で検討委員会の答申案に財政面、耐震化計画等を加味して作られたのがこの基本計画です。1月からパブリックコメントで広く住民の意見をお伺いしてきました。また、今年になってから国の耐震に対する制度が拡充され、市町村に対する耐震化事業の補助率のアップなど国としても早期の耐震化を進める方針を強く打ち出されたのを受け、当初計画を修正して6月の市議会全員協議会に計画案を提出したものです。竹野小学校は統合の方向になっていますが、子どもにとってよりよい環境が作れるよう本日はしっかりとした意見交換がなされることを期待しています。

(市民局長) 本日の説明会には市長部局、教育委員会部局から参加していますが、理事者のみ紹介させていただきます。向って右手から大下副市長、米田副市長、中山市長、米田教育長です。職員については時間の関係で省略させていただきます。本日の閉会は午後9時を一つのメドにしたいと思います。限られた時間ですので、皆さんの積極的な意見をよろしくお願いします。それでは最初に教育委員会より、資料の説明をお願いします。

説明

①京丹後市学校再配置基本計画について

(教育長) 最初に皆様にお詫びを申し上げます。5月中旬に竹野小学校のPTA会長様、区長会長様が教育委員会に来られ、学校再配置の説明会の開催の要望を受け、当初6月1日実施とお約束していたが、その後市議会の全員協議会で学校再配置について議論する事になったため、当初お約束していた日に開催できなくなりました。関係者の皆様にご迷惑をおかけし、1箇月遅れの開催になった事をお詫び申し上げます。

まず学校再配置の基本計画から説明いたします。市長から経緯や思いについて説明がありましたのでその部分はできるだけ簡略にさせていただきます。学校再配置についてはまず保護者の意見・地域の意見を聞くことが最重要だと考え、各町毎に分科会を設置し議論を積み上げてきました。学校再配置計画は地域づくりと深く関わります。合併して市域は500平方kmに及び、京都府内の市で3番目の大きさになりました。小中学校の数は40校と府内のトップです。しかし児童生徒数は府内でも下から3番目になり、京丹後市は小規模校が点在していることが数字でもわかります。京丹後市の児童生徒数は、昭和56年、今から27年前の小中学生は11,179人でした。今年度は5,804人と半減しています。平成27年度の推計では4,608人です。丹後町は昭和56年1,359人、今年度489人と56年の36%となりました。平成27年度は409人の見込みです。小学生に限ると、56年856人、今年320人、竹野小学校は77人、25人とい

う数字です。市内全ての学校で子どもたちの数は減ってきている中、学校再配置が必要という判断に至ったわけです。しかしながら「新しい地域づくりになるものでなければならない。」という理念を持ち、①学校の力・元気を確保②学校施設の整備③教育環境の充実④市域全体のバランスと地域振興の4つの視点で学校再配置を議論してきました。再配置にあたり、既存の学校の伝統を保ちながら新たな地域づくりのため、学校教育・社会教育を通して十分に地域とコミュニケーションをとっていく必要を感じています。地元から学校がなくなる不安を多くの人を感じているのも当然だと思います。再配置後の学校施設の利用方法など今後十分に話し合っただけでその不安を少しでも解消していきたいと考えています。

学校の適正規模について、分科会・検討会でも話題になりました。施行規則に定められている学校の標準規模は小学校でクラス替ができる1学年2・3クラス、中学校では3～6クラスとあり小学校では12～18学級となっています。京丹後市内でその基準を満たしているのは、大宮第一小学校と網野北小学校だけです。ある程度の児童生徒数の学級集団でなければ、学習や運動にも支障をきたすため、小規模校が多い京丹後市にあった標準とは何かと議論した結果出されたものが①小学校は6クラス以上1クラス20人を下回らない。②中学校は3クラス以上1クラス20人を下回らない。という原則でした。今回提示した案どおりに学校再配置がなされたとしても、平成27年度には一クラス20人を下回る学校が出てきます。

この竹野小学校も現在児童数が25人で複式学級が1あります。12人以下の場合は複式学級となりますが、全校児童が25人以上の場合複式学級は一つという規定により、本来2クラスになる複式学級が1クラスとなっています。その人数もギリギリで一人転出があれば2クラスになるおそれがあります。複式学級の解消のためにも出来るだけ早い再配置が必要であると考え、竹野小学校は平成22年度に間人小学校に統合という案を提示したわけです。統合後の間人小学校の各学年の児童数は1年19人2年22人3年25人4年33人5年30人6年27人とほぼ京丹後市の基準に適合することになります。

確かに大規模校にない手厚い指導を受けられるなど、少規模校でも良いところはたくさんあります。しかしながら、6町の分科会でも複式学級や10人以下の学級ではソフトボール等のチームスポーツが出来ない。学習時に班分け等もできない。運動会をしても児童数が少なく盛り上がりにかける。などの指摘もあり、1学級に20人程度の児童は必要であるというように落ち着きました。

耐震化への課題については、後ほど別資料で詳しく説明します。

学校再配置の基本方針について、竹野小学校の児童は間人小学校へ通学する

ことになるわけですが、急な統合により、児童が対等平等に扱われるか親として不安があるとの意見をお持ちだと思います。この点については、計画が了承されれば両校の校長、教職員はもちろん、PTA 役員と十分協議を行い、合同の研修会の実施や、共同でできる学校行事などで交流の機会を増やし子どもや保護者が不安なく、きちんと一緒になれるよう準備を進めて行きます。

また、通学方法にも配慮してもらいたいとの要望が多いが、歩道、自転車道の整備など課題は多いが、道路の状況を点検し、安全な通学方法を確保したい。現状では、小学校は 4km、中学校は 6km 以上で通学支援を行っているが、猿、熊などの動物の出没、不審者の増加、海岸線特有の強風などにも十分に配慮し、機械的に行うのではなく、それぞれの条件を十分加味して支援策も考えていきます。

学校跡地や施設の活用方法については、今後地元の意見を十分伺って整備をすすめる予定をしています。

留意すべき事項として、地域の活性化をあげています。学校がなくなることによって地域の元気がなくなるといった事のないよう、竹野小学校の敷地や施設を利用した学校行事を計画するなど、子どもの声がこだまする様な計画を考えていきたいと思っています。

学校再配置は平成 22 年から概ね 10 年間かけて実施していく予定です。基本計画の小学校Ⅰは耐震性に緊急の問題がなく素案どおりに再配置を進める小学校、小学校Ⅱは旧耐震の学校で再検査の結果、検討が必要な小学校です。

最後の実施計画案は今年 1 月にパブリックコメントをかけた案です。丹後町域の小学校は、竹野小学校は旧耐震、豊栄小学校も旧耐震(一部新耐震)、間人小学校が新耐震(一部旧耐震)、宇川小学校が新耐震であり、再配置案は間人小学校に竹野小学校が平成 22 年に統合、豊栄小学校が平成 25 年に統合の予定です。それぞれの検討結果は右端にあります。

皆さんの心配な点を十分にお聞かせいただき、それを元に検討を重ね、子ども、保護者、地域の皆さんの不安なく、再配置が進められるよう取組んでいきたいと考えています。

(教育次長) 耐震化計画について、説明を行います。

耐震化の用語で、旧耐震と新耐震があります。これは、昭和 56 年以前の建築基準法の耐震で作られたものを旧耐震と呼び、震度 6 強以上の耐震性能になっている昭和 56 年以降の建物を新耐震と呼んでいます。京丹後市でも耐震診断をいくつか実施してきました。(資料 4 p 別紙 1 参照) また文部科学省から旧耐震の建物は平成 18 年度中に耐震診断を実施するよう求められたため、全ての建物の優先度診断を実施しています。竹野小学校は優先度ランク⑤で、2 次

診断が早期に必要とされる①②に比べると、緊急度は低くなっています。丹後町内では宇川小学校が平成14年度に2時診断実施後平成16年度に補強を終了しています。(資料4 p別紙2 参照)

資料の2ページに国の動向が記されています。平成7年の阪神淡路大震災を契機に地震に対する法が整備され、公立小中学校の地震補強工事の国として進めていく方針が示されました。しかし、市町村等の財政負担もかかるのでなかなか進みませんでした。平成20年の中国四川大地震により危機感を深めた国はさらに対策を急ぐように補助率をあげるなどして市町村へ指導があり、平成21年5月には経済危機対策のための地方向け臨時交付金が措置され、それを利用して耐震化の加速を強く指導がありました。これを受け、京丹後市でも旧耐震の学校は全て補強をしていく方針を出し、5ページにある耐震化実施計画を立てたわけです。しかし、再配置との関わりもあり、竹野小学校のように括弧書きになっているものは統合年度によっては実施を再検討する場合があります。(市民局長) ありがとうございます。説明が早口でわかりにくい部分もあったとは思いますが、これから質疑の時間に入りますので積極的な意見をお願いします。発言者は挙手のうえ、マイクを持っていきますので、その後発言をお願いします。また、肩書きや氏名もさしつかえなければ発言前をお願いします。(出席者) 6月中旬に学校再配置についてPTAとして総会を開催し、アンケートも実施した。その結果を教育長に提出させていただいたが、PTAの意見はどの程度きいていただけるものか。

(教育長) アンケート結果を確かにいただきました。全て目を通して整理しています。まず通学方法については、3km以上は通学支援をするという原則を決めています。個々の検討までは全体計画との整合性もあり、していません。学校再配置の情報が入らない。持ち物の問題、間人小学校のいじめの問題など保護者の不安が書いてありました。いじめ問題については、間小も真剣に取り組んでいます。そのような不安をもたれることのないよう両校の校長先生と十分に話し合い、検討していきたいと思っています。また、学校、PTAとも両方の学校で十分な話し合いを行い、安心して一緒になれるよう準備をしていく必要があります。事前に学校間の交流を。とか不登校にならないように。転校生のようによそ者扱いにならないか心配という意見もありました。これらも学校として合併が決まれば十分検討し、取り組んでいきます。また、新しい学校をつくるような気持ちでという意見もありました。当然計画案がまとまれば、両校のPTAはもちろん地域にも何らかの形で情報提供をしていくつもりです。また、間小でもこの場で出た不安な点などは説明をしていくつもりです。

(出席者) 高学年の不安と低学年の不安はまた違います。私は合併については前

向きに考えています。市の案では平成 22 年統合になっていますが、既に夏休み前になっています。平成 22 年に間に合うのか不安です。4 月から 1 年かけて準備するのなら可能かもしれませんが、今からでは時間が足りないのでは。今から、合同行事とか組み込んでみてもわずかの時間しかない。通学方法もスクールバスなのかどうか市としての考えを聞かせて欲しい。間小に行くには竹野川を渡らなければならない。警戒水位の時などは子どもは危なくて渡れない。竹野小学校は地区の避難場所にもなっている。学校がなくなった後はどうなるのか。答えられる範囲でよいので答えて欲しい。

(教育長) 確かに 1 学期が終わりもうすぐ夏休みになる。時間の余裕は少ない。計画案を了解いただければ二・三学期で両校の交流なども工夫しながら行っていきたい。教育委員会としては複式学級という環境をできるだけ早く解消させたいという考えで、平成 22 年度統合を打ち出している。準備が間に合わない場合は 23 年にならざるを得ないが、するのであれば少しでも早くという思いでいる。具体的なプログラムはまだ作っていないので、どのような交流ができるかは両校の意見を聞きながら進めたい。

スクールバスについては、財政部局と協議をしている最中。学校再配置によりスクールバスの台数も多く必要になる。ある程度は確保できる見込みがあるが全体数の把握がまだできていない。基本的に 3km 以上は通学支援を行うという原則は決めているのでスクールバスは出すこととなります。

(大下副市長) 避難場所については、市としては一時避難場所と広域避難場所の 2 種類があり、旧町時代に決められた場所を引き継いでいます。1 次避難場所とは一時的に避難する場所で丹後町では各地区の集会所がそれにあたります。広域避難場所とは数日間滞在できる寝泊りができる避難所で、竹野小学校区は間人中学校が避難場所になっており、竹野小学校ではないと記憶しています。随分以前の話なので、経過等詳しくご存知の方がおられれば補足説明をお願いします。

(市長) 通学時不安だけでなく、地域の人に十分納得してもらえるような取り組みをしていきたい。スクールバスも含め行政としてしっかりと対応していきたい。避難場所も地元の人と相談して考えていきたい。

(出席者) 間人中学校が避難場所と今知った。川の向こう側が避難場所なのはおかしい。万が一橋が流れたらどうするのか。

(市民局長) 竹野小学校は裏山が迫っており、土砂災害のおそれがあるので避難場所に指定できなかったという経緯があります。災害といっても、大雨、地震などいろいろな種類があります。竹野川の水位があがったときに対岸へ行けないのはよくわかります。様々な災害を総合的に考え、避難場所も考えていく必

要があります。

(出席者) 通学方法とか体操服などの持ち物、今日の説明会を受けて再検討した素案は何時提示してもらえるのか。また、その説明会をしてもらえるのか。

(教育長) 素案を作る前に PTA 等の意見を十分に聞き取り、通学方法もよりよい方法を考えていきたい。当然結果の説明は何らかの形でするつもりでいます。

(出席者) 平成 22 年の統合までもう時間がない。素案の提示はいつごろになるのか。

(教育長) 提示の時期は計画案が最終決定したらすぐに行うつもりです。とりあえずスクールバスを購入し準備をしなければならない。平成 22 年からの統合を了承してもらえれば、年内には行えると思います。持ち物については、両校と相談し、早急に行います。年内に大きな事柄は全て調整していきたいと考えます。また、保護者の不安なことは学校に伝えていただければ、できる限り対応していきます。

(出席者) PTA 総会では子どものことを考えると統合はやむを得ないとしても、特に時期までは決まっていなかったと思う。仮に平成 22 年統合なら PTA として何時までに答えを出さなければならないのか。リミットは何時ごろを考えているのか。

(教育長) 学校を統合することは、規則上皆さんの了解があればすぐに対応できますが、その他のいろいろな諸条件を擦り合わせるのに相当時間がかかる。平成 22 年ならお盆までにその意向を聞く必要がある。

(出席者) 間人小に竹野小を受け入れてもらう形になるが、間人小の PTA にアンケート等を実施し、その意見を取りまとめているのか。

(教育長) 間人小の PTA から意見とかはまだ聞いていない。アンケート等も竹野小の PTA の了解も必要だろうと考え、実施はしていない。教育委員会としては保護者の皆さんの意見を十分に聞いてからと考えていた。

(出席者) 通学の件とか、後日報告会とかはあるのか。

(市民局長) 本日の説明会が再配置の説明会のトップだと紹介したが、丹後町内では明日が間人小学校、9 日に豊栄小学校、13 日に宇川中学校で説明会を予定している。今まで、質問が中心に出されているが、質問以外の意見でも構いません。

(出席者) 平成 22 年統合は竹野小学校 PTA の了解があればするというニュアンスの説明だが、受け入れた後でやはり通学バスは出ませんなどと言われても困る。市側から具体的な計画案を提示して、この条件で統合します。というものがあってしかるべきだと思う。

(教育長) 通学方法については、保護者の意見を十分に取り入れて取り組んで

いきたい。できない事はきちんと説明していくつもりです。子どもの安全のためなので、通学方法はきちんと確保をするつもりです。無茶な要望でない限り一般的な対応はさせていただくつもりです。

(出席者) 通学方法だけに限らず、PTAのOKがなければ何も進まないという考え方がおかしい。今日の説明会でもっと具体的な話があると思っていた。私は個人的には大勢の中で勉強できる環境が良いと思っている。納得のできる情報を提示してもらって初めて統合に向けての話ができる。

(教育長) おっしゃることは十分理解できます。PTAからいただいたアンケートに目を通し、条件さえそろえば、理解していただけていると思っています。ご意見のあった具体的な部分については、今日の意見も踏まえて詰めていきたいと考えています。

(出席者) PTAは詰めた意見の提示を待って判断したらよいという事か。

(教育長) 意見を十分に出してもらい、それをお盆までにまとめて、再度機会を設けたい。説明はきちんとさせていただく。

(出席者) 通学路についてだが、広瀬橋は歩いて渡るのは危険。歩道も作らずに通わせるのは問題がある。

(副市長) 広瀬橋の幅員は狭いので、歩くのは確かに危険です。大人がランニング中に接触事故が起きたこともある。これから十分に検討していきたい。将来的には橋の架け替えも行われると思うがまだまだ先の話なので、通学方法については慎重に対応していきたい。

(出席者) 平成22年に統合の場合、歩道橋は絶対に間に合わない。もっと現実的な対応をきちんと考えてもらわないと統合なんてできない。

(市民局長) 具体例をきちんと提示しなさいというご意見ですね。

(学校教育課長補佐) 竹野小学校が統合された場合3キロ未満の集落は宮区、牧の谷と願興寺のみになり、それ以外はスクールバスもしくは路線バスでの通学が想定される。したがって、広瀬橋はバスで通過することになります。宮区、牧の谷と願興寺は迂回して荒木野橋を渡ることも一つの案として成り立ちます。

(出席者) 竹野小学校の児童が間人小に通うのにバスと徒歩に分かれるのはおかしい。そんな話なら根本的なこととしてPTAの言った意見も本当に通るのか。

(副市長) PTAの意見は尊重します。マイクロバスには29人まで乗れます。牧の谷までバスが入るのだから、現在の児童数25名全員バスに乗れます。市も人情があり、意見交換をしてよりよい環境を整えられる場合は対応していきます。

(学校教育課長補佐) 私の説明不足でした。具体的な経路は確定していませんが、スクールバスは効率的に運用していくことになっており、運行経路によっては

全員の対応も考えられます。

(出席者) 私の子どもは随分前に竹野小学校を卒業しましたが、こじんまりとしたとても良い学校でした。地域は文化も豊かで、私を温かく迎えてくれました。学校統合を通して、新しいまちづくりをしたいという学校再配置の崇高な理念はよくわかりました。間人小との統合までに私たちの竹野小とお別れする機会を作ってもらいたいと思います。あと半年で私たちがなっとくできるお別れができるでしょうか。竹野地区の誇りを確認し新たなまちづくりをするには半年の準備期間はあまりに短い。統合の思いは地域の中でもそろそろという機運は正直ありました。心の準備もあります。半年で無理やり統合するのはやはり無理です。せめて1年は地域でお別れする期間が欲しい。平成23年に延ばすことは無理なのですか。時間をかけることで、地元と行政と十分な話し合いができると思います。

(教育長) アンケートを見て統合賛成も多く、希望年度も平成22年度が多かったので、22年度統合で地域の支持も得られると考えていました。今の言葉も意見として持ち帰りたいと思います。

(出席者) 教育長の言われたアンケートはどのような形でとられたものか。誰が22年統合賛成といっているのか。統合時期の根拠がわからないので教えてもらいたい。

(教育長) 再配置案の統合時期については、竹野小学校の場合複式学級の解消を一刻も早く行いたいという観点で平成22年統合となりました。いただいた竹野小学校PTAのアンケート結果もたまたま22年度が多かったという事実もありました。

(出席者) 基本計画は住民の全く知らないところで行われ、その案が一人歩きをしている。学校統合が前提としてあるように聞こえる。今日は意見交換の場だと思っていたが、一方的な説明のように思えて仕方ない。ここで生まれ、竹野小を卒業、地域での学校の役割は大きい。なくなることで地域に与える影響も大だ。子どものためには人数がすくないより多いのが良いと思うし、保護者が了解すれば統合も仕方ない。しかし竹野小は地域の文化の中心であり、跡地利用もまだ決まっていない。計画案が決まれば22年で統合する。あまりにも急ぎすぎ。地域の意見を踏まえ、地域の活性化がなされるようもっときっちりとした対応が提示されなければならない。

(教育長) 細かな点が詰めていないのは確かです。跡地利用などははっきりしていません。住民の意見を聞きながら進めていきたいと考えています。住民の皆さんと一緒にすすめていきたいという気持ちが細部まで詰め切れなかった原因ともいえます。

(出席者) 地域の方の意見が今出たが、そんなことを今の時点で言っていたら統合なんてできない。「子どものため」を考え、合併には前向きであると PTA の意向は伝えてある。卒業した OB の意見で統合が白紙に戻るのはおかしい。何を根拠に 22 年統合かは、複式を避けるの一点だと思う。途中経過がわからないので先ほどの意見になったのかもしれないが、まず「こどものため」という考えの中心を変えないでいただきたい。地域の人に学校の授業を見に来てもらいたい。そうすればそのような意見は出ないと思う。

(出席者) 私は統合に反対しているわけではない。活性化をといわれたので、平成 22 年統合ありきで進んでよいのかと疑問もち、地域の意見を聞いて行政に反映してほしいという思いを伝えたかっただけだ。私は PTA が了解しているならそれでよい。

(出席者) アンケートの結果については、平成 22 年にしてほしいとは書いていない。問題が解決すれば統合してもよい。という表現のはずだ。解決しないなら平成 24 年でも 26 年でも構わない。

(教育長) 統合の時期を 22 年度にしたのは、アンケートの提出前であり、一番考えたのは学校の適正規模の確保であり、複式を避けたいという大前提がある。PTA の意見で平成 22 年度統合になったとは考えないでもらいたい。

(出席者) アンケートの結果は平成 22 年度が 4 人、平成 23 年度が 5 人、反対の人も 8 名いたのでその事も十分考慮してもらいたい。

(教育長) 統合時期の判断基準をアンケート結果ではしていないということを理解してもらいたい。

(出席者) アンケートの結果に間人小のいじめがあったと思う。このまま統合すると、体操服や水泳帽など一緒になっても親の負担軽減のため、竹野小で使っていたものを使うことになる。竹野小のこどもは 1 学年 1 人～3 人程度だと思う。体育の時など、いつまでも竹野小であることがわかり、子どもの同士で使っている者が違うのはいじめなどの対象になりやすのではと不安に思っている。間人小の PTA にもこのような危惧を伝えてもらいたい。同じ物を持っていると安心だが、多分そうはならないと思う。PTA や学校の先生にもこの気持ちをしっかりと伝えてもらいたい。こどもがいつまでも転校生やよそ者のように思われるのが不安。私自身の 2 年間の委員の任期で書くような研究内容があるかどうか不安。

(教育長) 確かに統合されても竹野小出身者は学年に一ケタで、ほとんどが間人小の児童となる。お母さんの心配もよくわかる。学校に転校生が来たときも当然持ち物は前の学校で使用していたものを利用する。危惧しているようなことがないようにしっかりと学校で取り組むことが重要なことだと思っている。それ

でも同じ物に買い換えた転校生の例もある。市長が市の財政でも考えると耳打ちしてくれた。学校のきちんとした指導でお互いに認め合える子どもにしていきたいと考えている。学校へももちろんきちんと伝えていく。

(出席者) 親としては統合やむなしと考えている。今日会場で出た意見を明日の間人小で伝えて欲しい。また、意見を持ち帰り検討した結果の伝える機会を設けて欲しい。

(教育長) 検討結果は、しかるべく形で伝えていきたい。

(出席者) 学校名はどうなるのか。

(教育長) 当分の間は間人小学校の予定。豊栄小学校との関係で最終的には考える必要があると思っている。

(出席者) 教育委員会へ要望をしておきたい。統合までの期間が大変短く、地域はまだ不安で一杯である。次回の説明会には持ち物、いじめ、通学方法など今日出された問題について、必ず具体的な案を提示してもらいたい。9月議会に条例を出すまでに地域と十分話し合いをしてもらいたい。

(市民局長) そろそろ時間ですが、最後に本日の感想も含めて米田副市長からあいさつをお願いします。

●閉会あいさつ（米田副市長）

皆さん本日は熱心にまた切実な意見をお聞かせいただきありがとうございます。教育問題は国家100年の計とも言われます。強い地域のつながり、子どもの教育環境、切実な地域の要望が十分に活かされるよう今後とも取り組まなければならないと感じました。いろいろの面で子どもへの心配から提案がありました。しっかり行政として受け止めていかなければと思いを新たにしています。通学バスの問題や橋や通学路の整備、行政として短期間でどこまでやり切れるかわかりませんが、皆様の意見を真剣に聞き、地元と協力して問題を解決していきたいと思えます。本日はどうもご苦労様でした。